

## 倶 多 楽

### ○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しました。

平成 18 年は火山情報の発表はありませんでした。

### ○ 概況

#### ・ 火口や噴気の状況（図 1～5）

11 月 13 日および 11 月 16 日に調査観測を実施しました。日和山、大湯沼および地獄谷等の熱活動の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。

また、6 月 30 日および 7 月 25 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、噴気の状況や火口の状況に変化はありませんでした。

#### ・ 地震活動（表 1、図 6～7）

倶多楽付近を震源とする地震の発生は少なく、地震活動は静穏に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。



図 1 倶多楽 日和山と大湯沼の状況（2006 年 11 月 16 日 南東側から撮影）

---

※資料は気象庁のほか、北海道大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。

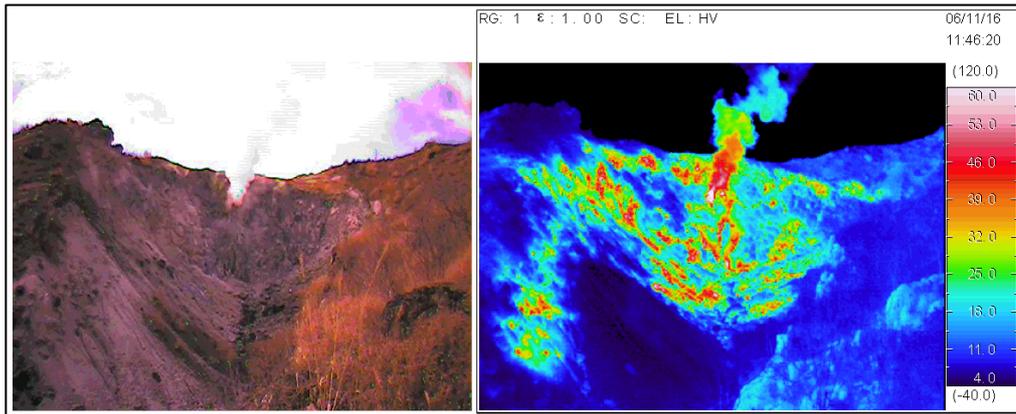


図2 倶多楽 赤外熱映像装置\*による日和山の表面温度分布  
(2006年11月16日 周辺図①から撮影〔測定距離約70m〕)

【日和山】

- ・ 山頂部の噴気孔ではこれまでと同様、大きな噴気音を伴って白色の噴気を勢いよく噴出していました。
- ・ 赤外熱映像装置による観測では火口温度は約80℃（昨年2005年11月、約90℃）とこれまでと比較して大きな変化はありませんでした。

\* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図3 倶多楽 地獄谷の状況  
(2006年11月16日 周辺図②から撮影)



図4 倶多楽 大湯沼の状況  
(2006年11月16日 周辺図③から撮影)

【地獄谷・大湯沼】

- ・ 地獄谷では弱い噴気活動や温泉の湧出が続いており、その状況に変化はありませんでした。
- ・ 大湯沼およびその周辺の湯沼や地熱域の状況に変化はなく、熱水の湧出や弱い噴気活動が続いていました。

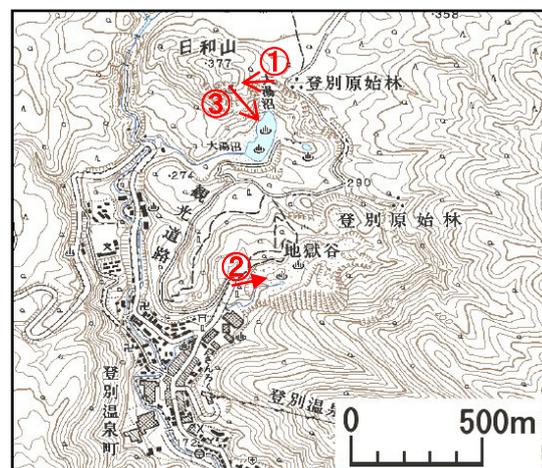


図5 倶多楽 周辺図

表 1 倶多楽 地震・微動の月回数 (上登別)

2006 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	1	0	1	2	3	1	3	2	2	—	—	2
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0

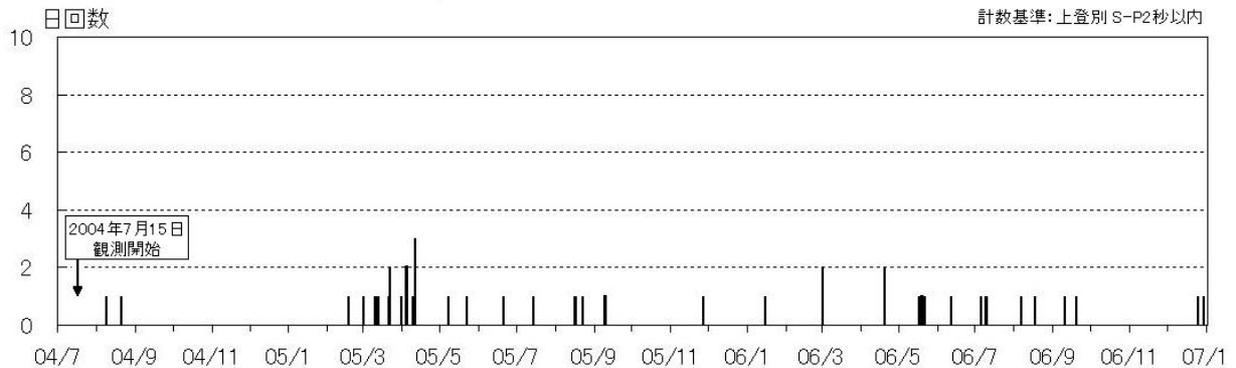


図 6 倶多楽 日別地震回数 (2004 年 7 月 15 日～2006 年 12 月 31 日)  
2006 年 10 月 1 日～12 月 22 日まで上登別観測点は機器障害のため欠測していました。

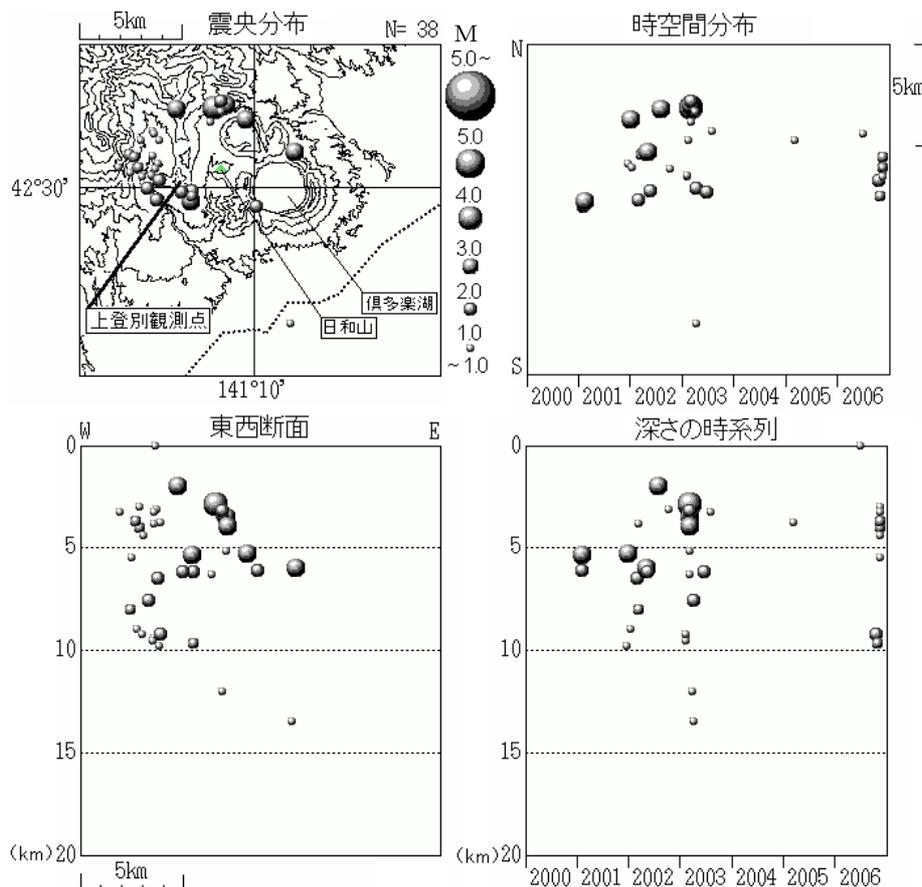


図 7※ 倶多楽 広域ネットによる倶多楽周辺の地震活動 (2000 年 1 月～2006 年 12 月)  
マグニチュード (M) は地震の規模を表します。資料中の M は暫定値で、後日変更することがあります。

- ・ 11月に、日和山の西側約5km付近を震源とする地震がややまとまって発生していますが、これらの地震は倶多楽の火山活動と直接関連するものではないと考えられます。

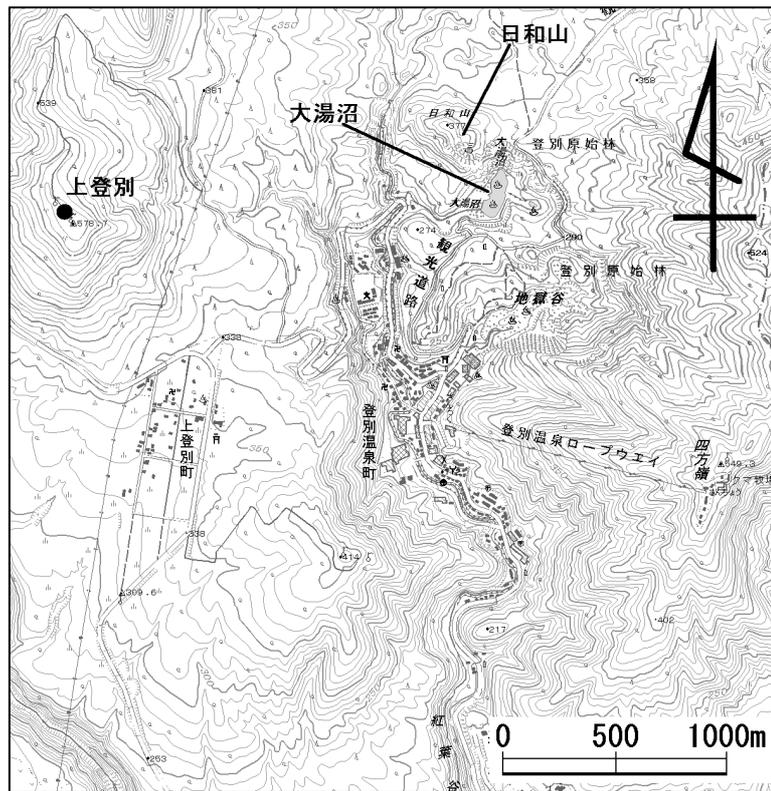


図8 倶多楽 地震計配置図(図中●)